

## 若年層による南紀方言のアスペクト形式の使用とその理解

大野 仁美

キーワード：「テイル」、南紀方言、若年層

### 要旨

和歌山県南部（串本町・古座町・古座川町・太地町・那智勝浦町）の若年層話者（高校生）が、現代日本語の「～シテイル」に相当する形式としてどのような形式を用いているかを、アンケート調査によって明らかにし、それらの用いられ方から、いわゆる継続相（動詞の動作の継続）と結果相（動詞の動作がなされた結果の状態の継続）の区別をどのような体系としてもっているかについて考察した。そして、関東方言話者との対照を通じて、同じ言語の話者であっても、もっている体系が異なれば、文法概念のとらえ方や理解の仕方が異なりうることを示した。

### 1. はじめに

現代日本語において動詞に後続する「～テイル」というアスペクト形式に、(a)その動詞で表される動作の継続（継続相）と、(b)その動詞が実現した結果の状態の継続（結果相）という、二つの異なる継続の意味があることは良く知られている。以下例文(1)と(2)では、同じ「聞いている」という表現が用いられているが、それぞれによって示される、「聞く」という動作がなされる（／なされた）時点は異なっている。

(1) 子どもが集中した様子でお話を聞いている。

(2) その件については聞いている。

例文(1)では、「聞く」という動作は今なされている最中であるが、例文(2)では、発話時点より以前に既になされたことを示し、それがなされた結果得られた状態が発話時点において存続していることを述べている。この二つのアスペクトの違いは、通言語的には異なる形式・方法で示されるものであり、現代日本語に見られる一つの形式に多義として見られる現象は例外的である。

一方、西日本方言では、広い範囲においてこの二つのアスペクトを形式上も区別する（榎垣 1962、国立国語研究所編 1999、工藤 2014）。南紀方言もその一つであり、先の例文(1)・(2)は以下のように区別される。

(1)' 子どもが集中した様子でお話を聞きやる。

(2)' その件については既に聞いたある。

例文(1)'と(2)'で用いられている、現代日本語の「～テイル」に相当する形式である「ヤル」・「タール」は、南紀で用いられる継続を表すアスペクト形式の「アル」とその接続する動詞との間の「テ」の有無によって対立している。「テ」がある場合は動作が終了・実現していることを、ない場合は動作が終了に至っていないことを表す。それぞれ、本稿では「ヤル」・「タール」と表記する。

アスペクト	形式	表記
動作の継続	動詞（連用形）＋アル	（動詞＋）ヤル
動作が終了した状態の継続	動詞（連用形）＋テ＋アル	（動詞＋）タール

しかしまた、この二つの異なる形式を有している西日本の方言の間にも違いが存在する。大阪など関西地区の一部では、このアスペクト的対立をこれらの形式で表し分けることをせず、どちらか一方（「トル」や「テル」といった、「テ」を有する形式）にそれら両方の意味を担わせるという変化を起こしている。その場合、もう一方（「ヨル」などの、「テ」をもたない形式）は、消えてしまわず卑語的表現を担うという別の機能をもつように変化した（井上 1998、工藤 1999）。また「現在形ではテル類、過去形ではトル類が使用されやすい」というさらなる使い分けの萌芽が見られることも指摘されている（日高 2016）。

このような“新しい”現象は、南紀においては見られていなかったが、本来の「ヤル」・「タール」に加えて「テル」・「トル」といった形式が特に若年層において近年顕著に用いられるようになって来た。これら「テル」・「トル」は、「ヤル」や「タール」に置き換わりつつあるのか、それとも別の機能をもって併用されているのだろうか。本稿では、その概要を理解するために実施したアンケート調査の結果を報告する。以下、第2節では若年層に用いられているアスペクト形式と、そこからどのような体系の存在が推測できるかについて述べる。第3節では、自分が用いているアスペクト形式の意味を話者がどのように理解しているかについて、英文法を通じて高校生にもなじみのある「進行」・「完了」という用語を利用して調査した結果について延べる。

## 2. 若年層に用いられるアスペクト形式

この節では、和歌山県南部において若年層が動作の継続と動作の結果の状態の継続を表すのに、どのような形式を用いているかについて述べる。アンケートの結果、「ヤル」・「タール」という上の世代が使用してきた形式に加え、「～シテル」・「～シトル」形式（以下、「テル」・「トル」と呼ぶ）が広く使用されていることが確認できた。

調査は、2015年に串本古座高校古座校舎において1・2年生合計75名を対象に実施した。回答者の生育地を次のページの表1に示す。

表1 2015年実施アンケート回答者の生育地（小学生時に主に過ごした場所）

和歌山					大阪	無記入	合計
串本町	古座町	古座川町	太地町	那智勝浦町			
12名	14名	20名	4名	18名	4名	3名	75名

アンケートでは、以下の状況において、方言で（＝あなた自身のことばで、ふだん友達や家族と話すときの言い方で）どのような表現を用いるかを質問文および口頭で尋ねた。問1は動作の継続を、問2は動作の完了の状態の継続を問うものである。

問1 今現在「宿題をやっている最中」であることを表すのになんといいますか？あなたは今宿題に取り組んでいます。友達から電話がかかって来て、「今何かしているか？」と聞かれたら何と答えますか。

問2 宿題の提出日にあなたはまだ宿題ができていません。もし友達がすでに宿題を済ませ持って来ていたら、解き方を見せてもらおうと思います。友達にそれを尋ねるのに何といいますか？

以下、それぞれについて、みていくことにする。

## 2.1 動作の継続

問1に対する回答のうち、「宿題をやっている」相当の回答において、下線部分に用いられた形式とその形式をあげた回答者数（複数回答可）、ならびに回答者によるそれぞれの形式の使用パターンを示す。圧倒的に「ヤル」の使用が多いが、「テル」も少なからず使用されていることが分かる。また、「ヤル」・「テル」を併用する話者は少なく、それぞれを単独使用する話者が多い。75名のうち18名、すなわち約4分の1の回答者が「ヤル」を使用していない。

<u>用いられた形式と回答者数</u>	<u>動作の継続を表すのに用いられるアスペクト形式</u>
ヤル 57名	ヤルのみ使用 46名
タール 2名	ヤル・テル(9名)・ヤル・トル(1名)を使用
イル 1名	ヤル・イル・テルを使用 1名
テル 25名	テルのみ(14名)・タールのみ(2名)・トルのみ(1名)使用
トル 3名	テル・トルを使用 1名

## 2.2 動作の結果の状態の継続

次に、問2に対する回答のうち、「宿題をやっている・やってある」相当の回答において、下線部分に用いられた形式とその形式をあげた回答者数、ならびに使用パターンを以下に示す。複数回答可であるが、上記にあてはまらない「その他」の回答（「やった?」「できた?」等）が多かったため、合計数は回答者数に満たない。ここでも、「タ

ール」に次いで、「テル」の使用が多いことがわかる。44名のうち16名が「タール」を利用していない。

用いられた形式と回答者数 動作の結果の状態の継続を表すのに用いられるアスペクト形式

ヤル	3名	タールのみ使用	22名
タール	28名	タール・テルを使用	4名
イル	1名	タール・トルを使用	1名
テル	18名	タール・ヤルを使用	1名
トル	1名	テルのみ(14名)・ヤルのみ(2名)使用	

### 2.3 回答者のもつアスペクト体系の予想

これら問1・問2<sup>1</sup>の回答を統合して、その回答者が、動作の継続と動作の結果の状態の継続とを表すのにどのような体系を有しているかを推測してみる。質問項目が少ない上に、問2には該当する回答を挙げていない例が多く不十分ではあるが、問1・問2の両方に「宿題をやっている・やってある」相当のものをあげている回答者は44名いるので、問1と問2に用いる形式を、どの形式を用いるかではなく、排他的に使い分けられているかないかで分類してみた。つまり、「動作の継続」と「動作の結果の状態の継続」にそれぞれ異なる形式を用いている回答者は、これらの概念を混同しない二分体系を有しているだろうと推測できる。その可能性があるのは25名であった（「排他的二分型」と呼ぶ）。

次に、「動作の継続」と「動作の結果の状態の継続」にそれぞれ排他的に用いる形式と、両者に共通して用いる形式を有するタイプがある（共通項あり二分型）。共通項として用いられているのは「テル」である。「テル」は、「ヤル」や「タール」を用いた表現を敬体にする場合に用いられるので、二分体系があった上での共通項という存在かもしれないし、「ヤル」・「タール」のどちらを使って良いかわからないような場合に用いられるような便利な存在なのかもしれない。両方の可能性が考えられる。

一方、他方がもう片方に含有されるような状態であると、もうこの二分体系は確固とした存在とは見なされにくくなる。さらに、「テル」・「トル」のみが用いられ、「ヤル」

<sup>1</sup> なお実際の問は3つで、問3は発話時点以降の意志をもった動作の継続を表す「～イル」（大野1991参照）という形式が若年層に用いられているかどうかの確認を目的とするものであった。以下のような問に対し、「宿題する・しとく・せなあかん」等の別形式を用いるもの、「シヨル・シトル」という意志と関わりのないものを挙げる回答が多かったが、「～イル」形式をあげた例も10例あった。

問3 家族に出かけようと誘われましたが、あなたはその後出かけずに宿題をやり続けたいと思っています。宿題は時間がかかるので、家族が出かけている間にやり終えることはできませんが、その間やり続けているつもりです。誘いを断るのに、宿題に取り組んでいるつもりであるから行けない、と言うとき何と言いますか？

が用いられないパターン、つまり現代日本語などに等しい状況になっている場合は、よりいっそう二分体系の存在は疑わしい。そして究極的には、用いる形式はなんであれ、「動作の継続」と「動作の結果の状態の継続」とを同じ1つの形式で表す、両者を区別しないタイプ（区別なし型）になる。このような変化が進行しつつあるのか、それとも二分体系は保ったままで、オプションとして「テル」や「トル」をうけいれているのかを明らかにするためには、話者がどのように二つ以上の形式を使い分けているかを知る必要がある。

表2 回答パターンから推測する回答者のアスペクト体系

問1の回答	問2の回答	推測できるアスペクト体系
ヤルのみ	タールのみ(17)・テルのみ(5)	排他的二分型 26名
ヤル・テル(2)・ヤル・トル(1)	タールのみ	
ヤル・テル	タール・トル(1)・	
ヤル・テル(3) ヤル・イル・テル(1)	タール・テル	共通項あり二分型 4名
ヤルのみ	タール・ヤル(1)	他方含有型 3名
ヤル・テル(1)・テル・トル(1)	テルのみ	
ヤルのみ(2)・タールのみ(2)・テルのみ(7)		区別なし型 11名

### 3. 「進行」と「完了」の理解

前節で見たように、2015年のアンケートでは、若年の南紀方言話者に、「動作の継続」と「動作の結果の状態の継続」を区別しなかったり、区別していても両者に同じ形式を用いたり、また「ヤル」・「タール」という形式ではなく「テル」や「トル」といった形式を用いる話者が存在することが分かった。このような話者は二つのアスペクトの違いを体系的な違いとしてとらえているのだろうか。

それを調べるために、両者の対立と（一部）同様の概念を表して、なおかつ英文法で用いられるため高校生にもなじみがあると考えられる「進行」・「完了」という用語を用い、これらの概念と、自分の方言の形式上の対立によってしめされる意味的違いを連結することができるか、それを理解する際にはもっている母方言体系の違いの影響が認められるかどうかを見てみることにした。

ただし、「進行」・「完了」という概念のうけいられかたの度合いについては、かなり差があると考えられる。前者がわかりやすいのに比べて、後者はそうではない（後者はさらに、国文法で用いられる助動詞の「完了」の意味ともしばしば混乱を引き起こしていることがアンケートの結果でもみてとれた）。

このような問題が存在するので、アンケートは、単に「進行」と「完了」について問

うのではなく、二段階で実施することにした：第一段階では日本語の例文が「進行」と「完了」のどちらを表しているかを問うが、それにどう答えるかを重要視するのではなく、その後「進行」と「完了」の概念について私が説明し、その後で再度回答してもらい、その際に説明前と説明後において理解に変化が生じるかに着目することにした。つまり、方言において「動作の継続」と「動作の結果の状態の継続」を区別していれば、それを援用することによって、「進行」と「完了」（の一部であるが、動作の結果の状態の継続とオーバーラップしている部分）の理解がより容易に進む可能性がある；それを説明後の変化をみて確認できるのではないかと考えたのである。例文で表される状況として回答者が想起したものは皆同じとは限らないので、それぞれの問いに必ずしも唯一の正解が存在するわけではない。また日本語で「テイル」を用いて表されるものを、できるだけ自然な英語に置き換えると、動詞の進行形や完了形ではなく、状態動詞の基本形や形容詞を用いてあらわされるものが実際には多い。したがって、「動作の継続」か「動作の結果の状態の継続」かという観点からすれば一応の正解例を考えることは可能ではあるが、「進行」と「完了」のどちらが正解かどうかということよりも、説明前と説明後でどのような修正がなされるかに注目することにした。

そこで、アンケートでは、(A)ある状況を表すのに用いられる現代日本語動詞の形式はどのようなアスペクト意味をもつと考えるか、(B)それを自分の母方言でどのように表すか、(C)母方言において自分が用いている形式を分析することができるか、を調べることを目指した。また対照のために、両者の概念を形式上区別しない関東方言の話者にも同じアンケートを実施した（ただしその場合は方言に関する説明等は実施しない）。

### 3.1 2016年・2017年アンケート調査概要

先に述べた目的の元に、以下のようなアンケートを作成し実施した。アンケートは同高校において2016年に2年生38名で実施したが、第二段階での回答の選択が充分なされていなかったため、2017年にも22名の高校生（同高校串本校舎、2年生）を対象に追加調査をおこなった。いずれも、上のアンケート内容をA4用紙の両面に印刷し、まず問題文を読んで回答してもらった。次に、回答後、私が口頭で以下を説明した。

日本語において「～テイル」を用いて表されるもののうち、

「進行」とは、動詞で表される動作が継続中であること

「完了」とは、動詞で表される動作自体は終了し、それによってもたらされた状態や結果が存在していること、そのままであることを意味する。

進行の「～テイル」は南紀方言の「ヤル」を用いて、「完了」の「～テイル」は、南紀方言の「タール」を用いて表される。

以下の例文の下線部は、英語で表現すると「進行形」で表されますか、それとも「完了形」で表されますか。どちらかを選んで○をつけてください。どちらかわからない・どちらでもないと思う場合は、(かっこ)の中に○を書いてください。

- |   |             |
|---|-------------|
| (1) この感染症のためにたくさんの牛が毎日 <u>死んでいる</u> 。     | ( ) (進行/完了) |
| (2) ご飯を <u>食べていた</u> ときに、電話が鳴った。          | ( ) (進行/完了) |
| (3) 今ご飯を <u>食べている</u> ので、少し待ってください。       | ( ) (進行/完了) |
| (4) 今そちらに <u>行っています</u> 。もうすぐ着くと思います。     | ( ) (進行/完了) |
| (5) 父はこちらに <u>来ています</u> 。あなたのことを待っていますよ。  | ( ) (進行/完了) |
| (6) ●●には何度も <u>来ています</u> ので、行き方はわかります。    | ( ) (進行/完了) |
| (7) 警察はこの結論に到達する前に、こんなことまで <u>調べている</u> 。 | ( ) (進行/完了) |
| (8) いつまでもテレビなんか <u>見ていたら</u> 、遅刻するよ。      | ( ) (進行/完了) |
| (9) 犯人はここで被害者宅に <u>寄っている</u> 。            | ( ) (進行/完了) |
| (10) 昨日からずっと雪が <u>降っている</u> 。             | ( ) (進行/完了) |
| (11) 明日になったらだいぶ雪が <u>積もっている</u> だろう。      | ( ) (進行/完了) |
| (12) 彼のうそにはみんな <u>気がついて</u> いる。           | ( ) (進行/完了) |

説明を聞いた後、用紙を裏返して、カッコ内に自分の方言で用いる形を書き込み、「進行」と「完了」（あるいはいずれでもない）を再度選択してもらった。

アンケートの結果を、説明前と説明後を合わせて次ページ表4に示す。「わからない・どちらでもない」と考えた場合の○印と「回答無し」の場合は共に「無答」とした。なお比較対照として、回答者数は少ないが、関東方言話者の大学生に協力してもらって得た回答（以後「関東」と呼ぶことにする）と、説明後の選択マークが充分になされていない2016年アンケートの「説明前」部分も合わせて呈示する。

表4では、説明後の回答選択において、説明前にくらべて回答が増えた箇所をマークした。若干増えた箇所（関東では2ポイント、南紀では3ポイント以下増えた場合）には下線、もう少し増えた箇所（関東では3～6ポイント、南紀では4～7ポイント）は網掛け、それ以上増えた箇所（関東では該当無し）には下線と網掛け両方でマークした。増えた部分がある分、ポイントの減った箇所もあるが、こちらはマークしてしない。

以下、回答の偏り方および説明後の修正の方向が南紀と関東で異なるものについて簡単に述べておく。

- 1) 問(1)は、説明前には南紀で「進行」に、関東で「完了」に回答が偏っている。説明の結果、南紀では「進行」に、関東では「完了」に変更修正があった。
- 2) 問(2)・(3)はどちらも「進行」だが、(2)は「完了」に、(3)は「進行」に回答が偏っている。その原因は、(3)の問題文が「食べている」なのに対し、(2)の問題文は「食べていた」であるからだと考えられる。説明後は、問(2)は、南紀で「進行」に変更修正が多くあったが、関東では「完了」に修正が少しあった。

- 3) 問(5)は、南紀で「進行」と「完了」が拮抗するが、関東では「完了」に偏る。説明後、南紀で「完了」に変更修正が多くあり、結果、関東とあまりかわらない偏りになった。
- 4) 問(6)は、南紀で「進行」に、関東では「完了」に修正があった。
- 5) 問(9)は、南紀で「進行」と「完了」が拮抗するが、関東では「完了」に偏る。説明後、南紀で「完了」に変更修正が多くあり、「進行」との差が開いた。
- 6) 問(12)は、南紀で「完了」に多くの変更修正があったが、関東では進行に修正があった。

表4 説明前と説明後の「進行」・「完了」の選択

	南紀									関東					
	2016 調査 (38名) 説明前			2017 調査 (22名) 説明前			2017 調査 (22名) 説明後			2017 調査 (16名) 説明前			2017 調査 (16名) 説明後		
	進 行	完 了	無 答	進 行	完 了	無 答	進 行	完 了	無 答	進 行	完 了	無 答	進 行	完 了	無 答
(1)	30	1	7	13	6	3	18	3	1	4	9	3	4	12	0
(2)	11	18	9	8	14	0	16	6	0	7	9	0	4	12	0
(3)	36	0	2	21	0	1	22	0	0	16	0	0	16	0	0
(4)	34	1	3	20	2	0	20	1	1	15	1	0	16	0	0
(5)	16	17	5	10	9	3	4	17	1	2	12	0	3	13	0
(6)	7	16	15	3	15	4	10	12	0	2	12	2	0	15	1
(7)	13	14	11	3	15	4	4	18	0	2	14	0	2	14	0
(8)	26	1	11	14	3	5	17	5	0	10	3	3	13	0	3
(9)	12	14	12	8	9	5	6	14	2	2	13	1	2	14	0
(10)	34	2	2	19	2	1	17	4	1	12	3	1	16	0	0
(11)	6	6	26	5	11	6	3	18	1	3	6	7	3	9	4
(12)	11	15	12	5	11	6	2	20	0	1	11	4	5	8	3

これらのうち修正の方向が南紀と関東で異なっているのは、問(1)・(2)・(6)・(12)である。問(6)については次の機会に譲ることにし、問(1)・(2)・(12)について、以下述べる。

### 3.2 反復する動作

問(1)は、「今現在複数の牛が毎日死んでいる」という、反復を表すものである。複数の牛が死ぬという現象がまだ続いているのだが、それを「死ぬ」という(反復)動作がまだ終了していない、ととらえるのは、南紀方言話者にとっては(関東の話者よりも)



容易であるようだ。説明前も「進行」を選ぶ回答者が多いし、それは説明後さらに増える。一方、関東の話者の場合は逆で、説明前も過半数が「完了」を選び、説明後も「完了」に修正する回答者がいた。その都度「死ぬ」という変化がなされているので、分析的に考えた結果さらに「完了」を選ぶことになったと思われる。一方、南紀方言話者にとっては、「死にやる」あるいは「死んで行きやる<sup>2</sup>」という形式を用いることによって、一頭ずつは死を全うしていても、全体のできごとがまだ収束していないことを容易にとらえることができるようだ。

### 3.3 時制とアスペクトの分離

問(2)・(3)は、「～テイル」の存在によって表示されるアスペクトと、それとは別に節末で「ル」や「タ」の形を持って示される(相対)時制とを、分離してとらえることができるかどうかという問題である。アスペクトという概念は、高校までは英文法でも国文法でも導入されることがないので、南紀の高校生の方が関東の大学生よりもこのような概念にくわしいということはあるにない。実際に説明前の段階では、両者ともに「完了」を選択する回答者のほうが多い(「ご飯を食べていたときに」の「た」は、完了の助動詞だ、という知識も関与しているだろう)。

しかしながら、説明後、「食べやった」という方言形を用いることができれば、それが「ル」で終わろうと「タ」で終わろうと、ここでは「タール」ではなく「ヤル」が用いられている、という、対立する両者の概念を認識することによって、時制からアスペクト概念を抽出することができることをアンケート結果は示している。文法的な説明を同様にしても、聞き手である話者自身の文法体系と結びつけることができるかどうかによって、その後の理解の度合いや質は異なるようである。

### 3.4 「気づいている」

動作の継続なのか、動作の結果の状態の継続なのかという判断が、南紀方言話者には容易で、関東方言話者にはそうではない例(あるいは、「進行」・「完了」のどちらでもない、と考えられた例)である。少なくとも排他的二分型の体系を持つ南紀方言話者にとっては、用いる方言形式は「タール」しかないので、「気づいていない」状態から「気づく」という変化を経て、その状態が保持されている「気づいている」へという状態の変化が起こっているという判断は、より容易にできるようである。

---

<sup>2</sup> 実際に回答として書かれているのは「死んできやる」であるが、これは「死んで来やる」はありえないので、「死んで行きやる」と見なす。両者は表記上はともに「シンデキヤル」となりうるが、アクセントの位置が異なり、対立は明瞭である。

### 3.5 回答者のもっているアスペクト体系と修正のあり方：今後の課題

最後に、話者のもっているアスペクト体系と、説明後の修正のなされようについて、今回の非常に限られたデータから見えることを述べ、今後の課題を明確にしたい。話者のタイプがある程度わかるのは、南紀方言話者で自分の用いる方言形を書き込んだ回答者である。2016年と2017年のアンケート回答者合計60名のうち、該当する回答者は23名であった。表5に、回答と、有しているとおもわれるアスペクト体系を示した。また、説明前と説明後で、修正を行い、それが用いている形式と合致した選択をしている場合を「正」、誤った選択をしているものを「誤」とし、それぞれ網かけの濃淡でしめした（「正」が薄め）。この23名においては、持っていると考えられるアスペクト型と修正のありかたには違いがあり、「排他的二分型」の回答者(16名)のうち9名(56%)と「共通項あり二分型」(3名)のうち1名(33%)は説明後修正したが、「他方含有型」(4名)の回答者は修正をしていなかった(区別なし型はいなかった)。これが偶然なのかどうかは、今回の調査だけでは分からないが、「他方含有型」の体系を持っている話者は、「排他的二分型」の体系を援用して意味の区別の判断に用いるのは、たとえそれが話されている地域で過ごしていても、困難なところがあると推測できる。今後はこの問題に焦点をおいて、調査を継続する予定である。

**表5 記述式回答を含むアンケートの結果(1)**

問	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)		(6)		(7)					
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後				
2016 3	進行	死にやる	進行	完了	食べやった	完了	進行	進行	行きやる	進行	進行	来たーる	完了	完了	進行	完了	進行	
2016 8	○	死にやる	進行	完了	たべやる	進行	進行	たべやる	進行	進行	いきやる	進行	○	きたーる	完了	完了	きたる	進行
2016 14	完了	死んだある	完了	進行	食べやる	進行	進行	食べやる	進行	進行	いきやる	進行	完了	来たある	完了	完了	来たある	完了
2016 30	進行	死にやる	完了	完了	食べやった	進行	進行	食べやる	進行	進行	行きやる	進行	(来てる)	来たある	進行	来たある	来たある	完了
2016 35	進行	死にやる	進行	完了	食べやる	進行	進行	食べやる	進行	進行	行つとる	完了	進行	来たある	進行	来たある	来たある	完了
2016 4	進行	死にやる	進行	完了	食べやった	完了	進行	食べやる	進行	進行	行きやる	進行	進行	来たある	完了	完了	来たある	完了
2016 5	進行	死にやる	進行	完了	食べやった	完了	進行	食べやる	進行	進行	行きやる	進行	進行	来たある	完了	完了	来たある	完了
2016 7	進行	死んできやる	完了	完了	食べやった	進行	進行	食べやる	進行	進行	行ってます	進行	進行	来たある	完了	完了	来たある	完了
2016 9	進行	死んできやる	完了	完了	食べやった	進行	進行	食べやる	進行	進行	行きやる	進行	○	(来てる)	完了	完了	来たある	完了
2016 14	進行	死にやる	進行	完了	食べやった	完了	進行	食べやる	進行	進行	行きやる	進行	完了	来たある	完了	完了	来たある	完了
2016 18	進行	死にやる	完了	完了	食べやった	進行	進行	食べやる	進行	進行	行きやる	進行	完了	来たある	完了	完了	来たある	完了
2016 20	○	死にやる	進行	進行	食べやる	進行	進行	食べやる	進行	○	行きやる	進行	○	来たある	完了	完了	来たある	完了
2016 21	○	死にやる	進行	完了	食べやった	完了	進行	食べやる	進行	進行	行きやる	進行	進行	来たある	完了	完了	来たある	完了
2016 23	進行	死んだーる	進行	完了	食べとった	進行	進行	食べよる	進行	進行	行きやる	進行	完了	来たーる	完了	完了	来たーる	完了
2016 29	進行	死にやる	進行	完了	食べやる	進行	進行	食べやる	進行	進行	行きやる	進行	完了	きたーる	完了	完了	(きやる)	完了
2017 26	進行	死にやる	進行	完了	食べやる	進行	進行	食べやる	進行	進行	行きやる	進行	完了	来たある	完了	完了	来たある	完了
2016 2	進行	死にやる	進行	完了	食べとる	完了	進行	食べやる	進行	進行	行つとる	進行	進行	来たーる	完了	完了	来たーる	完了
2016 19	進行	死んどる	完了	完了	食べやった	進行	進行	食べやる	進行	進行	行きやる	進行	完了	来たーる	完了	完了	来たーる	完了
2017 15	進行	しにやる	完了	完了	食べとった	進行	進行	食べやる	進行	進行	行きやる	進行	完了	来たーる	完了	完了	来たーる	完了
2016 6	進行	死にやる	完了	完了	食べとった	進行	進行	食べとる	進行	進行	行つとる	進行	完了	来たとる	完了	完了	来たとる	完了
2016 27	進行	死んどる	完了	完了	食べとる	進行	進行	食べとる	進行	進行	行つとる	進行	完了	来てる	完了	完了	来てる	完了
2017 22	進行	死んどる	○	完了	食べやった	進行	進行	食べやる	進行	進行	行きやる	進行	完了	来たとる	完了	完了	来たとる	完了
2017 28	進行	死んどる	完了	完了	食べとる	進行	進行	食べとる	進行	進行	行つとる	進行	完了	来たとる	完了	完了	来たとる	完了

○: どちらでもない・わからない (カッコ内は用いられている意味の推測できない形式であることを示す)

表5 記述式回答を含むアンケートの結果(2)

回答者	(8)			(9)			(10)			(11)			(12)			修正後		用いられている形式		型
	前	後	完了	前	後	完了	前	後	完了	前	後	完了	前	後	完了	正	誤	進行	完了	
2016 3	進行	見やったら	進行	完了	進行	降りやる	進行	進行	たーる	完了	進行	きづいたある	完了	2	ヤル	タール	排他			
2016 8	進行	みやる	進行	よりやる	進行	降りやる	進行	進行	たある	完了	○	きづいたある	完了	8	ヤル	タール	排他			
2016 14	進行	見やったら	進行	よりやる	進行	降りやる	進行	完了	積もってる	完了	完了	きづいたある	完了		ヤル	タール	排他			
2016 30	進行	見やったら	進行	○	寄ったある	進行	降りやる	進行	○	積もったある	完了	きづいたある	完了		ヤル	タール	排他			
2016 35	進行	見やったら	進行	完了	寄ったある	進行	降りやる	進行	○	積もったある	完了	きづいたある	完了	4	1	ヤル	タール	排他		
2016 4	進行	見やったら	進行	完了	寄ったある	完了	降りやる	進行	進行	積もったある	完了	きづいたある	完了	2	1	ヤル	タール	排他		
2016 5	進行	見やったら	進行	完了	寄	完了	降りやる	完了	進行	積もったある	完了	きづいたある	完了	3	1	ヤル	タール	排他		
2016 7	進行	見やったら	進行	完了	寄ったある	進行	降りやる	進行	進行	積もったある	完了	きづいたあるよ			ヤル	テマス	タール	排他		
2016 9	○	見やったら	進行	完了	寄ったある	進行	降りやる	進行	○	積もったある	完了	きづいたある	完了			ヤル	タール	排他		
2016 14	進行	見やったら	進行	完了	寄ったある	完了	降りやる	進行	進行	積もったある	完了	きづいたある	完了	9	ヤル	タール	排他			
2016 18	進行	見とったら	進行	○	寄りやる	進行	降りやる	完了	進行	積もったある	完了	きづいたある	完了		ヤル	トル	タール	排他		
2016 20	進行	見やったら	進行	○	寄りやる	完了	降りやる	完了	完了	積もったある	完了	きづいたある	完了	6	ヤル	タール	排他			
2016 21	進行	見やったら	進行	○	寄ったある	完了	降りやる	進行	○	積もったある	完了	きづいたある	完了	4	ヤル	タール	排他			
2016 23	進行	見とったら	完了	寄ったある	進行	降りやる	進行	進行	○	積もったある	完了	きづいたある			ヤル	トル・ヨル	タール	排他		
2016 29	進行	見やったら	完了	寄ったある	進行	降りやる	進行	進行	積もったある	完了	きづいたある	完了			ヤル	タール	排他			
2017 26	進行	見やったら	完了	寄ったある	完了	降りやる	進行	進行	○	積もったある	完了	きづいたある	完了	3	ヤル	タール	排他			
2016 2	完了	見とったら	進行	完了	寄とる	進行	降りやる	進行	○	積もったある	完了	きづいたある	完了	3	2	ヤル	トル	タール	共通	
2016 19	進行	見やったら	完了	寄とる	進行	降りやる	進行	○	積もったある	完了	きづいたある	完了			ヤル	トル	タール	共通		
2017 15	○	見やったら	完了	寄ったある	進行	降りやる	進行	○	積もったある	完了	きづいたある	完了			ヤル	トル	タール	共通		
2016 6	進行	見やったら	完了	寄ったある	進行	降りやる	完了	完了	積もったある	完了	きづいたある	完了			ヤル	トル	タール	含有		
2016 27	進行	見とったら	○	寄とる	進行	降りやる	進行	進行	積もったある	完了	きづいたある	完了			トル	タール	ル・テ	含有		
2017 22	進行	見やったら	進行	寄とる	進行	降りやる	進行	○	積もったある	完了	きづいたある	完了			ヤル	トル	タール	含有		
2017 28	○	見とったら	○	寄とる	進行	降りやる	進行	○	積もったある	完了	きづいたある	完了			トル	タール	トル	含有		

○:どちらでもない・わからない (カッコ内は用いられている意味の推測できない形式であることを示す)

## 謝辞

この研究は平成 27 年度麗澤大学外国語学部特別研究助成をうけておこなった研究の成果の一部である。アンケート調査にご協力下さった麗澤大学のみなさま、串本古座高校古座校舎・串本校舎のみなさま、同校の先生方、特に便宜をはかって下さった松下一京先生に深く感謝申し上げます。

## 参考文献

- 井上文子(1998)『日本語方言アスペクトの動態—存在型表現形式に焦点をあてて』秋山書店
- 榎垣実編(1962)『近畿方言の総合的研究』三省堂
- 大野仁美(1991)「串本方言の継続を表す助動詞—「アル」・「オク」・「イル」—」『東京大学言語学論集』11: 211-225.
- 工藤真由美(1999)「西日本諸方言におけるアスペクト対立の動態」『阪大日本語研究』11: 1-17.
- 工藤真由美(2014)『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』ひつじ書房
- 国立国語研究所編(1999)『方言文法全国地図 4』大蔵省印刷局(現財務省印刷局)
- 日高水穂(2016)「近畿中央部方言におけるシテイル相当形式の動態—現在形と過去形の非対称現象をめぐって—」『国文学』100: 430-444、関西大学国文学会

